

フットサルクラブの発展に関する研究

～府中アスレティック F.C.の F リーグ参入からトップクラブ定着へ～

トップスポーツマネジメント

5008A325-8 中村恭平

研究指導教員： 平田竹男教授

2007 年、競技スポーツの世界で、日本国内の最高峰リーグとしては、最も新しいリーグとなる日本フットサルリーグ「Fリーグ」が設立された。F リーグが創設されたことによって、フットサル界では、それまで地域リーグに所属していたクラブが全国規模のリーグに参入することができる構造が確立された。

しかし、将来、全国規模の最高峰リーグに身を置くチームを持ちたいと考えとしても、どのようにすれば良いのか、定めた目標に向かって着実に進もうにも、その方法論が見えづらいのが現状である。筆者がその創設から運営に携わっている府中アスレティックフットボールクラブは、地域密着型のクラブであり、2006 年には、第 8 回関東フットサルリーグを 2 位で、第 12 回全日本フットサル選手権大会本大会を準優勝で終え、競技面での実績を残しながら、Fリーグ参入の最終選考で落選した。そこには、Fリーグ参戦の権利が単に「勝利」という意味の実力だけではないことを物語っている。このように、地域スポーツクラブが新たに創設された最高峰リーグに参入するためのノウハウは整理されておらず、そのリーグ参入を果たした後、地域スポーツクラブが継続的に発展していくために、どのようなクラブ経営が必要なのかも明らかになっていない。

そこで、本研究では、地域スポーツクラブがトップスポーツビジネス化することで、全国規模の最高峰リーグへの参入を果たし、ステージが上がった後も継続的に発展していくための参考となる、クラブ経営のノウハウを明らかにすることを研究目的とする。

2章では、上記の目的を達成するための分析手法を述べる。本研究の分析手法としては、まず府中アスレティックが F リーグ参入までに直面した壁と、乗り越えるために行ったアクションを整理し、地域スポーツクラブがFリーグに参入するまでのノウハウを検証する。次に、Fリーグ参入後のさらなる発展策を検証するた

めに、すでに F リーグに所属しているクラブの財務分析および、クラブの経営的指針を得るために関係者へのインタビュー調査を行う。また、クラブがさらなるステップアップをしていくために、世界の中で、トップクラスの競技レベルをもっており、プロリーグとして運営が行われているスペインおよびイタリアのリーグの現状を関係者へのインタビュー調査を行うことによって分析する。

3章では、それらの分析結果を述べる。府中アスレティックの F リーグ参入までの発展過程の分析を行った結果、最高峰リーグに参入するクラブに求められたものには、経営面としての「市場」・競技力としての「勝利」・フットサル及びクラブ自体の普及面としての「普及」・地域の支援力としての「後援」・クラブ経営にも影響を与える施設面としての「アリーナ」という大きく 5 つの参入障壁があることが明らかになった。そして、それを乗り越えるためのアクションとして、「クラブの法人化」「地域への普及・貢献活動」「人的環境の整理」「自治体への働きかけ」が必要となることが明らかになった。また、F リーグクラブや海外クラブへのインタビューの結果、それらの5つの項目はトップリーグに参入した後のさらなる発展のためにも必要な要素であり、未だ、市場規模が小さい F リーグの場合は特に「クラブ独自の普及策」が必要であることが明らかになった。

以上の分析結果を踏まえると、4 章で述べたように 2009 年度シーズンから F リーグに参入した府中アスレティックが、今後さらなる発展を達成するための施策について、既存の F リーグクラブを参考とした市場規模の拡大策および、独自の普及策が必要だと考えた。そこで、筆者が経営に携さわる、ダイレクトマーケティング支援事業でも活用しているデータベースマーケティングを参考とし、株式会社 DeNA が運営するモバイルサイト「モバゲータウン」などを例として、携帯電話

を使用した普及策の提案を行った。

本研究によって、地域クラブが発展するために、最高峰リーグに参入するためのノウハウの整理がされたことに加えて、トップリーグ参入後もリーグで上位の成

績を残し、さらに世界でも通用するクラブに発展を続けていくために参考となる経営要素が明らかになった。